

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	フタスジヒメハムシ	発生量: 平年並
	べと病	発生量: やや多	マメシンクイガ	発生量: 少
	アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	発生量: やや少	—	—
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	ハダニ類	発生量: 平年並
	褐斑病	発生量: 多	果樹カメムシ類	発生量: 多
なし	シンクイムシ類	発生量: 多	果樹カメムシ類	発生量: やや多
	ハダニ類	発生量: やや多	—	—
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	アザミウマ類	発生量: やや多
	黄化葉巻病	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: やや少
	すすかび病	発生量: やや多	—	—
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: 平年並
	アザミウマ類	発生量: やや多	ハダニ類	発生量: やや多
秋冬ねぎ	さび病	発生量: やや少	ネギハモグリバエ	発生量: 多
	べと病	発生量: やや少	シロイチモジヨトウ	発生量: 多
	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	ネギコガ	発生量: やや少
	ネギアザミウマ	発生量: 多	—	—
いちご	うどんこ病	発生量: やや多	ハダニ類	発生量: 多
	炭疽病	発生量: やや多	—	—
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: 多	シロイチモジヨトウ	発生量: 多
	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並	—	—

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第9号の発行日は9月17日(火)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月15～20日

天候予報:仙台管区気象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、伝染源量は平年並であると推測される。(/ ±)
 (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年より多いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/ +)、発病株率は平年並であった。(/ ±)
 (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年より多いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並で(/ ±)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや低く(/ -)、寄生頭数は平年よりやや多かった。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシクイガ	—	少

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年より少なかったことから、越冬量は平年より少ないと推測される。(/ -)

※予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。

※本年の開花期(大崎市古川)(古川農業試験場発表)

タンレイ(5/24播種):7/23(平年差0日)

ミヤギシロメ(5/24播種):7/29(平年差-1日)

ミヤギシロメ(6/14 播種):8/4(平年差0日)

タンレイ(7/5播種):8/11(平年差-1日)

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)紫斑病

- ・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20~40日後に1~2回薬剤防除を実施する。
- ・QoI 剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第97号参考資料「ダイズ紫斑病のアゾキシストロビンに対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukyuugi25.pdf>

(3)べと病

- ・発生が著しい場合は単独防除する。

(4)立枯性病害(黒根腐病)

- ・地下部での発病となるので早期発見が困難であり、多発すると大幅な減収となるので、下記のサイト等を参考に診断及び対策を行う。

※農研機構 中央農業研究センター

「大豆作付予定の圃場におけるダイズ黒根腐病発病リスクの診断とその対策の手順」

https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/crop_diagnosis/soy_support_manual/red_crown.html

「ダイズ黒根腐病のリスク診断・対策マニュアル」

https://www.naro.go.jp/project/research_activities/soybeankuroneFull20200311_1.pdf

(5)アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

- ・例年、8月下旬~9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は薬剤散布を実施する。
- ・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

(6)フタスジヒメハムシ

- ・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬~9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(7)マメシクイガ

- ・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7~10日後の9月上旬)にかけて1~2回薬剤を散布する。
- ・本虫による被害は、ダイズの連作4年目以降から特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

(8)食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ等)

- ・中齢幼虫以上になると葉及び莢を加害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見まわす。
- ・オオタバコガについては、発生予報第8号「作物共通害虫」を参考にする。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月 15～20 日

天候予報:仙台管区气象台8月 22 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は徒長枝で平年よりやや低く、新梢葉で平年より低かった。また、発病葉率は、徒長枝で平年よりやや低く、新梢葉で平年並だった。(/ー～±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)20～25℃の気温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±～+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、ナミハダニの発生地点率は平年並、寄生頭数は平年よりやや少なかった。リンゴハダニの発生は確認されなかった。(/ー～±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・品種による収穫期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・最終散布を早めに切り上げると、晩生種で、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生したり、シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合がありますので、生育状況と収穫時期にあわせた防除を行う。
- ・被害部位(果実、葉、枝)は翌年の病虫害の発生源になるので、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
- ・病虫害の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については、『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 斑点落葉病

- ・収穫期まで常に発病の可能性があり、特に徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等では発生しやすいので、発生状況を観察して防除を実施する。
- ・降雨が続くと発病が急増する場合がありますので、定期的に防除を実施する。

(3) 褐斑病

- ・発生状況に注意し、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって定期的な防除を実施する。
- ・中生、晩生種で褐斑病による落葉が目立つ場合、収穫期まで防除を適切に実施する。

(4) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。
- ・発生の多いほ場では確実に防除を行い、ハダニ類の密度を低下させて翌年の発生を抑える。

(5) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第6号(8月2日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono06.pdf>

《お問い合わせ先》
宮城県病虫害防除所
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429
E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月15～20日

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
シンクイムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、ナミハダニの発生地点率は平年よりやや高く、1葉当たりの寄生頭数は平年よりやや多かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害果率は平年並だった。(/+～±)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・品種による収穫期の早晚を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)シンクイムシ類

・園内をよく見回り、被害果がみられたら適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するよう丁寧に散布する。

・近年、特に中生品種以降で、ナシヒメシンクイ又はスモモヒメシンクイと思われる果実被害の報告が増えている。シンクイムシ類の発生が多い園地では、早生品種収穫後に薬剤散布を行う。

(3)ハダニ類

・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

・これからの時期、ナミハダニの発生が多くなると、果実のがくあ部等への寄生が多くなるので注意する。

・発生の多いほ場では、薬剤防除等によりハダニ類の密度を低下させ、翌年の発生を抑えることが重要である。

(4)果樹カメムシ類

・防除情報第6号(8月2日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono06.pdf>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－9月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:8月16、20日

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
 (2) 18～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
黄化葉巻病	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年より高かった。(/ +)
 (2) 本病害を媒介するタバコナジラミの発生が県内で確認されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は高く(/ +)、発病株率は平年並であった。(/ ±)
 (2) 25～30℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は低く(/ -)、被害果率はやや高かった。(/ +)
 (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年より多いと予報されている。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、寄生頭数は平年より少なかった。(/ -)
 (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
 発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (-) : 少なくなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) 葉かび病・すすかび病

- ・葉かび病(発病適温 20～25℃、晩秋～春に発生多い)とすすかび病(発病適温 25～30℃、真夏から秋に発生多い)の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに登録のある農薬を散布する。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は 10 日以上、すすかび病は 2 週間以上と潜伏期間が長い。よって初発を確認した時にはすでに他にも潜在感染株が存在している可能性があるため、速やかに防除を行う。

(3) アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃ で約 14 日であるので、発生が多い場合は、7 日間隔で 2～3 回 IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(4) コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。

(5) オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

- ・発生予報第 8 号「作物共通害虫」を参考にする。

(6) トマトキバガ

- ・フェロモントラップによる調査では依然として県内各地で発生が確認されているので、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。防除情報第 3 号「トマトキバガ」(令和 6 年 6 月 24 日発行)を参考にする。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月16、19日

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年より低かった。(/ -)
- (2) 気温 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は多いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は低く(/ -)、寄生花率は平年より高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は多いと予報されている。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は低く(/ -)、寄生頭数は平年並であった(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は低く(/ -)、寄生頭数は多かった。(/ +)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺やほ場内の雑草は害虫の発生源となるので、除草を徹底する。
- ・植物体の過繁茂は病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。

- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(4)コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。

(5)ハダニ類

- ・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めてIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(6)オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

- ・発生予報第8号「作物共通害虫」を参考にする。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月15～20日

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	—	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年よりやや低かった。(/-)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/-)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年より高かった。(/+)
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害度は平年より高かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年より高かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。(/+)
(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギコガ	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/-)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・いずれの病害虫も多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

(4) シロイチモジヨトウ

- ・定点調査ほ(名取市:農業・園芸総合研究所)のフェロモントラップ調査では、5月以降、継続的に飛来が確認されている。
- ・被害が見られた場合は、浸透性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。
- ・本種は特に薬剤抵抗性の発達が早いため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避けるとともに性フェロモン剤の使用や被害葉の除去、幼虫の捕殺などの物理的防除を組み合わせる防除を行う。
- ・防除情報第7号(8月26日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono07.pdf>

(5)ネギコガ

・被害が見られた場合は、浸透性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—9月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:8月19～20日(育苗ほ)

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年より高かった。(/+)
- (2)20℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ぼの初期病害虫発生原因の多くは育苗から持ち込みであるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- IPM体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB) https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-jpm.html

- ・定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・本ほに感染した苗を持ち込まないよう、定植前まで防除を徹底する。
- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。また、一見病徴が見えない場合でも、うどんこ病に効果のある殺菌剤をローテーションに組み込み、防除を実施する。

(3)炭疽病

- ・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り、適切に処分する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。
- ・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしにせず必要に応じて開閉し、ハウス内の日照量を増やすなどして健全育苗に努める。
- ・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤(FRAC コード:11)の耐性菌が確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 89 号参考資料「QoI 剤耐性イチゴ炭疽病の発生と有効な防除薬剤」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/256498.pdf>

(4)ハダニ類

- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- ・スピロテトラマト水和剤の灌注処理を行う際は、薬剤をイチゴ苗に十分吸収させるため、灌注処理前の灌水は控える。灌注処理を行う際は、水圧は弱めにし丁寧に行う。
- ・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第8号-作物共通害虫-	令和6年8月26日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	------------------------	--------------------------

-9月下旬までの発生予報と防除のポイント-

巡回調査:8月15~20日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台8月22日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	-	多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、大豆の発生地点率及び夏秋トマトの被害果率は平年より高く(/+)、夏秋なすの被害果率は平年並であった。(/±)
- フェロモントラップ調査において、7月16~8月19日までの誘殺数が前年より多かった(名取市:28頭(前年6頭)、大崎市:437頭(前年217.4頭))。(/+)
- 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	-	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/±)
- フェロモントラップ調査において、7月16~8月19日までの誘殺数が前年より多かった(名取市:160.9頭(前年118.2頭))。(/+)
- 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	-	多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、夏秋トマト及び夏秋なすでは発生は確認されなかったが(/±)、秋冬ねぎでは発生地点率は高く、寄生頭数も多かった。(/+)
- 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年より多いと予報されている。(/-)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 多くの植物を餌にする広食性害虫であり、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、薬剤防除を実施する。
- 幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。

- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)オオタバコガ

- ・フェロモントラップ調査では継続して、発生の多い状態が続いている(図1)。
- ・防除情報第4号(7月22日発表)を参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/bojono4.pdf>

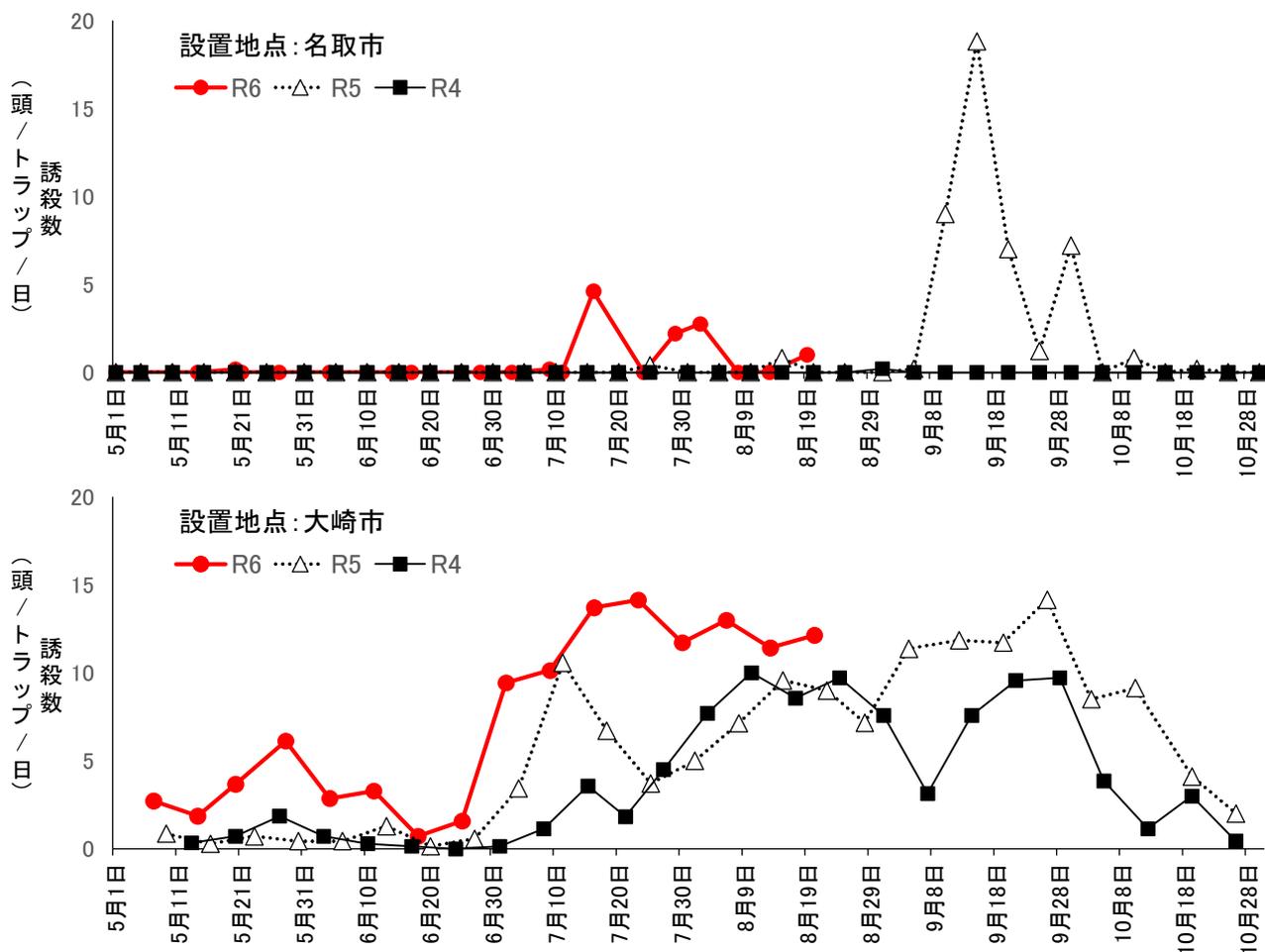


図1 フェロモントラップ調査におけるオオタバコガの誘殺数

(3)シロイチモジヨトウ

- ・防除情報第7号(8月26日発表)を参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono07.pdf>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム